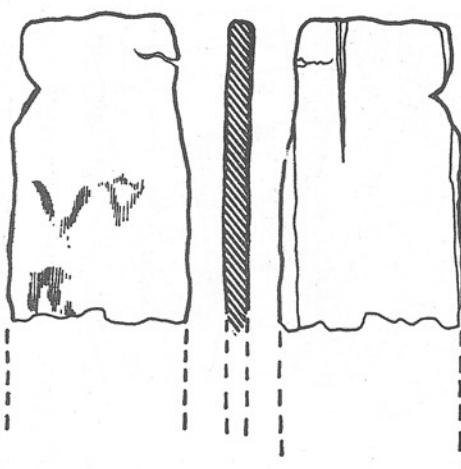


山形・笛原遺跡



木簡(1)

| | |
|---------------|-----------------|
| 所在地 | 山形県米沢市窪田町大字笛原字台 |
| 調査期間 | 一九八一年（昭56）七月～九月 |
| 発掘機関 | まんぎり会 |
| 調査担当者 | 手塚孝・龜田吳明 |
| 遺跡の種類 | 集落跡 |
| 遺跡の年代 | 奈良時代～平安時代 |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |



(米沢)

笛原遺跡は米沢市街地の北東3kmに当たり、最上川の本流となる松川によって形成された自然堤防及び河岸段丘上標高二二七mに位置する。一九八〇年（昭55）に笛原地区一帯が米沢市浄水管線センターと住宅団地造成の開発が計画されることとなり、米沢市教育委員会

(2)は第四層出土、上端左右に切り込みをいれ、下端を尖らせたものであるが、墨痕は認められない。
なお、墨書については、平川南氏の御教示による。

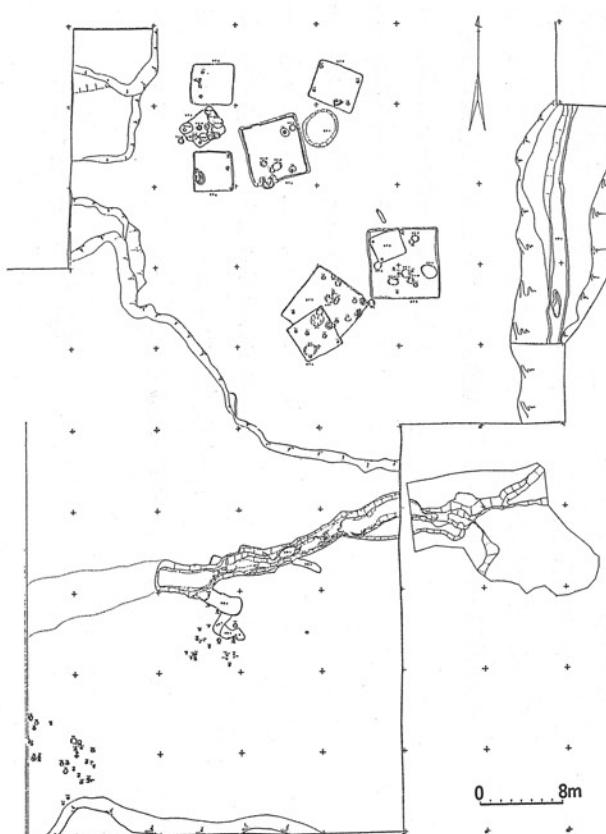
9 関係文献

川西町教育委員会

『道伝遺跡—第2次重要遺跡確認調査概報』

一九八一年
(藤田宥宣)

1981年出土の木簡



笛原遺跡遺構配置図

は分布調査と試掘調査を実施した。
その結果、八世紀から九世紀に亘る三万m³の遺跡が存在すること
が判明し、緊急発掘調査を地元考古研究会グループ「まんざり会」
に要請することになった。

まんざり会は翌一九八一年に二ヶ月の日程で調査を行い九棟の堅
穴住居跡、土壙、小規模な掘立柱穴群等一四七基を検出している。
遺物は旧最上川と合流していたとみられる溝状遺構を中心として

多量の須恵器・土師器とともに円面硯・墨書き器・木簡や櫂等の木
製品、それに六俵分相当の炭化米が検出されている。

8 木簡の积文・内容

木簡は三点検出しており、いずれも八世紀中葉に比定されるもの
である。积文は次の通りである。

(1) × □ 宝私田道 □ (150) × 35 × 3 011

(2) □ ×

(3) □ □ □

(89) × (25) × 2 055

9 関係文献

手塚孝・龟
田美明編 『笛原』 米沢市都市計画課
米沢市教育委員会

一九八一年
(手塚 孝)